

心よせるシンボルを

「くまモン」生みの親の1人である成尾雅貴氏が北國新聞社本社を訪れたときにお話した言葉です。

くまモンは九州新幹線の開通を契機に熊本県を売り出そうと生まれました。

そのくまモンが熊本地震の時、被災地のシンボルとして大きな存在になったのは驚きでした。地震直後、くまモンは人命救助が優先される中で活動を中止せざるを得ずすぐには出番がないと思われていましたが、くまモンは勝手に動き出し、復興に大きな力を発揮しそのシンボルになりました、成尾氏は能登にもシンボルが必要と訴えています。

今回、能登トキファンクラブが制作「ニッポニア・トキ次郎」は2026年に能登半島でトキが放鳥されることを盛り上げるべく本年度の能登トキファンクラブの活動の柱として制作を進めてきました。

制作途上の1月1日に震度7の能登半島地震が能登半島のみならず石川全域、富山県、新潟県にまで大きな被害を出し、5カ月を過ぎた現時点でも居住環境はほとんど1月1日のままから変化がありません。

月日の経過で住民は少しずつ日常を取り戻しつつあります、停電や断水の解消、仮設住宅への入居、全壊家屋の解体などが少しずつ進んでいます、しかし復興の先行きは見えず長い長い道のりが続きます。

トキ次郎が復興途上の住民の心のよりどころになれるかどうかわかりませんが半世紀前に本州最期のトキとして頑張っていたトキ「能里」に変わるトキが再び2026年に能登半島に舞い戻ることは我々住民に大きな力を与えてくれるものと確信しています。

トキ次郎は誕生したばかりで、まだ能登の人々の思いを背負って大空を飛ぶことはできません、そこでトキ次郎が力強く能登を背負って飛べるように育てる活動を提案します。

ニッポニア・トキ次郎後援会の設立

1. 後援会の事業

- ・着ぐるみの制作
- ・トキ次郎の仮設住宅や避難所など被災地訪問
- ・トキ次郎とくまモンとの交流会開催
- ・2025年度ゆるキャラコンテスト（ゆるバース）挑戦
- ・その他

2. 後援会の設立

- ・世話人会の発足
ライオンズクラブ334D地区3Z
能登トキファンクラブ
など

3. トキ次郎後援会に参加希望のかたは能登トキファンクラブお問い合わせからお願いします

